

令和 5 年 6 月 29 日現在

機関番号：11302

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K02445

研究課題名(和文) 学習指導力を高める教師集団の組織 日本の授業研究の蓄積をふまえて

研究課題名(英文) The organization of teachers for lesson study

研究代表者

吉村 敏之 (YOSHIMURA, Toshiyuki)

宮城教育大学・大学院教育学研究科高度教職実践専攻・教授

研究者番号：80261642

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：これからの学校教育で求められる「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけて、教師が学習指導力を高める研究集団のあり方について、日本でのすぐれた事例を検討し、指針を得た。子どもの事実に基づき、学問・芸術の追求をふまえた教材研究に基づく授業の創出により、一人ひとりの「人間」育成がなされた事実を示した。群馬県島小学校における「未来につながる学力」の形成、山梨県巨摩中学校における「科学と芸術の基礎」の追求が、子どもに人生を豊かに生きる力を培った。すぐれた授業の創出の基は、子どもの事実に基づき、学問と芸術をふまえた、教師集団による教材研究にあった。両校の研究は、宮城教育大学の「教育臨床研究」に生かされる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

子どもの人生を豊かなものにする「主体的・対話的で深い学び」を創るため、日本の教師がこれまでに蓄積した事実を検討し、実践にむけた具体的な指針を得た。群馬県島小学校における、子どもの可能性を引き出す「未来につながる学力」形成を目指す「授業の創造」、山梨県巨摩中学校における「科学と芸術の基礎」を培う「教科内容研究」の事例に注目した。学習指導力を高める教師集団のあり方をさぐり、「深い学び」を生み出す実践の要点を解明した。教師自身が学問・芸術の追求によって教材研究を深めること、目の前の子どもの事実をふまえて授業を展開すること、合唱などの芸術教育による「人間」形成がすべての教科学習の根幹となることである。

研究成果の概要(英文)：Towards the realization of "deep learning" that is required in school education, we have examined excellent examples in Japan and obtained guidelines regarding how a research group should be for teachers to improve their teaching abilities. The creation of lessons through teaching material research based on the pursuit of academics and arts has shown the fact that each person's "human being" has been nurtured. The formation of "academic skills that lead to the future" at Shima Elementary School in Gunma Prefecture, and the pursuit of "basics of sciences and arts" at Koma Junior High School in Yamanashi Prefecture, have nurtured children's ability to live life to the fullest. The basis for the creation of excellent lessons was the study of teaching materials by a group of teachers based on the facts of children, and on the basis of sciences and arts. The heritage created by the research of both schools is utilized in the "educational clinical research" of Miyagi University of Education.

研究分野：教育方法学

キーワード：授業研究 教育臨床研究 教科内容研究 学問・芸術をふまえた授業 学習の基盤となる芸術教育 学問・芸術を追求する教師集団 群馬県島小学校 山梨県巨摩中学校

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

### 1. 研究開始当初の背景

本研究の意義は、教育実践史研究と授業研究との2点あり、詳細は以下のとおりである。

#### (1) 教師の研究集団の活動に注目した、日本の教育実践の歴史—教育実践史研究

教師集団による研究の持続と蓄積に注目すると、次々に現れては消える流行の繰り返しという、政策や教育学者の主張とは異なる、教育実践の歴史が描ける。教育政策史、教育運動史、教育理論史に還元せず、教師集団による指導力形成に焦点を当てる点に、本研究の独自性がある。教育政策やイデオロギーとの連関で教育実践を裁断する手法による通説（例えば、敗戦後の「新教育」の盛衰について「戦後民主主義」「逆コース」などの政治と結びつけて把握すること）に対し、教師集団の研究の持続が子どもの学習の質を高めた事実之光を当てる。

#### (2) 日本の先人の創った事実をふまえた、教師の研究集団の組織—教師教育を支える授業研究

教師教育について、今日的課題の「深い学び」の創造にむけた、学習指導力形成への具体的な示唆が得られる。欧米の理論や手法をつまみ食いして教育学者が作ったモデル（例えば「学びの共同体」論とそれに従う学習形態）は、日本の教員文化になじまず、教師を消耗させ、教育の質を低下させる。日本各地で展開された、教師集団による授業研究は、指導力向上につながる教師教育のあり方を探る標となる。本研究で、すぐれた事例として検討する、島小学校も巨摩中学校も、教師集団が質の高い教材を子どもと共に追求し、「深い学び」を創った事実が確かにある。

### 2. 研究の目的

今後の教育に必要な「主体的・対話的で深い学び」を実現できる教師を育成するため、日本の授業研究の蓄積をふまえ、学校の内外で教師の研究集団を組織する指針を求める研究である。

高度な学習指導力が教師に培われるには、個人の努力では限界がある。教師の力を高め合う研究集団の組織が不可欠である。教師の指導力向上を支える集団のあり方をさぐり、具体的に組織する方策を求めるために、島小学校（群馬県）と巨摩中学校（山梨県）の事例を検討した。

次の3点の解明に力を入れた。(1) 教師の研究集団によって、子どもにどのような学力が培われたのか。(2) 教師に卓越した学習指導力を形成した、校内の研究集団が教師の力量形成にどのように寄与したのか。(3) 島小学校、巨摩中学校の教師の研究集団の質を高める上で、民間教育研究運動、地域の研究サークル、大学など外部の研究集団がどのような役割を果たしたのか。

### 3. 研究の方法

教師の学習指導力を高める研究集団のあり方と組織への道筋を探るため、島小学校と巨摩中学校、両校の研究とかかわりの深い、民間教育研究運動、宮城教育大学「教育臨床研究」について、資料の収集と分析、当事者（元教師、卒業生、研究者）から聞き取り調査を行った。

### 4. 研究成果

主たる成果は、教師集団による学問・芸術をふまえた授業の創造の有効性と、授業での子どもの事実に基づいて教科専門と教職専門をつなぐ「教育臨床研究」の可能性とを示した点である。

#### (1) 「科学と芸術の基礎」の追求による自立した「人間」の育成—巨摩中学校教育の卓越性

巨摩中学校では、1964年、研究を先導する久保島信保が赴任すると、数多くの校則の強制による「生活指導」から、生徒の自律を促す「教科教育」の充実へと方向転換する。生徒の「人間」形成にむけて「科学・芸術の基礎」を学ぶ授業が創られた。質の高い授業を求める教師集団が組織され、教科内容研究に打ち込み、校内での研究に加え、民間教育研究団体の成果からも学んだ。数学教育協議会の指導者であった遠山啓は、専門の数学にとどまらず「人間」教育を提案した。特別支援学級においても、言語の基礎、文学の授業、数学や自然科学の学習に力を入れた。実践の根底にあった考えは「人間として成長させるには、知的な働きをしっかりと身につけさせる」「高い内容を獲得させるためには、長いあいだかかって築きあげてきた文化の遺産を、子どもたちの発達に合ったように教材化していく」というものであった。

「芸術が、人間の問題を生きるということにかかわって提起している」として、芸術教育が重視され、音楽と美術は「私たちの生活の中での美的感性、真実なる感情へのあこがれをはぐくむもの」として、教育の根幹に置かれた。合唱は、全教科の学習を「総合」して表現するものと位置づけられ、全生徒、全教師で注力した。

巨摩中学校の教師集団による実践と研究は、島小学校での取り組みと通底する。「人類の文化遺産」とみなされた教材の追求により、子ども一人ひとりの内にある可能性を引き出す「未来につながる学力」の形成が目指された。子どもも教師も自己変革にむけて新しい世界を切り拓く「芸術」の「創造」として、授業が組織された。教材解釈の深化によって授業の質が高められた。

#### (2) 「教育における臨床の学」の構築の必要性—教職の専門性

宮城教育大学長として教師教育改革を進めた林竹二は、教職の専門性<profession>を、「瞬間ごとの子どもの動き、あるいは子どもの事実を正しく見抜いて、その中に子どもを変えてゆく確かな手がかりを掴む、また欠陥があるならば、その欠陥を除いてやるための具体的な手段、方法を発見し、それを駆使する専門家としての識見や力量を教師は、備えなければなりません」として、医師よりも「遙かに複雑で困難な仕事」とみなした。専門性形成の「臨床の学」を求めた。

教師が「専門家」となるには、学校が「学習者集団」すなわち「教師が根本からの専門的な訓練を受けることができる」場となり、教師集団が子どもの事実から学び続ける必要があると、林は主張した。群馬県島小学校長として「授業の創造」を先導した斎藤喜博の仕事は「学習者集団」の組織として評価した。子どもの事実に基づいて質の高い授業を創る「教育における臨床の学」の指針とした。1974年、斎藤が宮城教育大学授業分析センター教授となり、島小学校をモデルに、教師の成長を促す研究集団の組織を目指した。高橋金三郎（理科教育）とともに教師教育の根拠となる「教授学」構築に尽力した。以後、宮城教育大学で「教育臨床研究」が進められる。

先に示した研究成果について、その要点を図示すると、以下のとおりである。

(1) 教師集団による、学問・芸術の追求をふまえた、教材研究の深化と質の高い授業の創造

群馬県島小学校「授業の創造」1952～1963年：斎藤喜博校長を中心とした学校集団  
 子どもの可能性を引き出す「未来につながる学力」形成にむけた学習集団の組織  
 「人類の文化遺産」である教材の追求←教師集団による教材研究の深化



山梨県巨摩中学校「教科内容研究」1964～1976年：科学と芸術を追求する学校集団  
 「人間」として成長し続ける「科学と芸術の基礎」形成にむけた生徒集団の組織  
 科学と芸術の追求←遠山啓、林光など民間教育研究運動の成果に学ぶ教師集団

(2) 子どもの事実をふまえた、学問・芸術の追求に基づく授業を創る「教育臨床研究」

島小学校：文学・芸術・科学を追求  
 授業の創造によって「人間」として  
 成長し、自己変革を遂げる教師集団

巨摩中学校：科学と芸術の基礎を形成  
 教科内容研究によって「人間」形成を  
 目指す授業を創り、成長する教師集団



宮城教育大学「教育臨床研究」：子どもの事実をふまえた質の高い授業の創出  
 学問・芸術の追求に基づいた授業により、子どもの内に蔵された可能性を引き出す  
 文学・芸術に根ざした表現力の形成、高いレベルの科学の習得を目指す「教授学」  
 授業の成立：出発点は「教師の内にある教えたいたいもの」、根底は「生命への畏敬」

〈島小学校「職員合唱」〉



〈島小学校「児童合唱」〉



〈島小学校「教材研究」〉



〈宮城教育大学「教育臨床研究」〉



※写真は、いずれも、川島浩撮影『斎藤喜博の仕事』1976年に掲載されたもの

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

|                                                  |                     |
|--------------------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名<br>吉村 敏之                                  | 4. 巻<br>3           |
| 2. 論文標題<br>高橋金三郎の目指した「教授学」 宮城教育大学「教育臨床研究」の深化にむけて | 5. 発行年<br>2021年     |
| 3. 雑誌名<br>宮城教育大学教員キャリア研究機構研究紀要                   | 6. 最初と最後の頁<br>23-30 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし                    | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難           | 国際共著<br>-           |

|                                                  |                       |
|--------------------------------------------------|-----------------------|
| 1. 著者名<br>吉村 敏之                                  | 4. 巻<br>56            |
| 2. 論文標題<br>「深い学び」を生み出す教師の教科内容研究 巨摩中学校における「表現」の追求 | 5. 発行年<br>2022年       |
| 3. 雑誌名<br>宮城教育大学紀要                               | 6. 最初と最後の頁<br>363-372 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし                    | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難           | 国際共著<br>-             |

|                                                      |                     |
|------------------------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名<br>吉村 敏之                                      | 4. 巻<br>3           |
| 2. 論文標題<br>「教育臨床研究」の拠点となる教職大学院 宮城教育大学1974年大学院構想をふまえて | 5. 発行年<br>2022年     |
| 3. 雑誌名<br>宮城教育大学教職大学院紀要                              | 6. 最初と最後の頁<br>15-24 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし                        | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難               | 国際共著<br>-           |

|                                        |                    |
|----------------------------------------|--------------------|
| 1. 著者名<br>本田 伊克                        | 4. 巻<br>3          |
| 2. 論文標題<br>新しい教職大学院における教員養成が目指すもの      | 5. 発行年<br>2022年    |
| 3. 雑誌名<br>宮城教育大学教職大学院紀要                | 6. 最初と最後の頁<br>3-13 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし          | 査読の有無<br>有         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-          |

|                                        |                     |
|----------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名<br>本田 伊克                        | 4. 巻<br>916         |
| 2. 論文標題<br>子どもが学ぶことばの「意味」を捉える学力論を      | 5. 発行年<br>2022年     |
| 3. 雑誌名<br>教育                           | 6. 最初と最後の頁<br>60-67 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-           |

|                                                                |                       |
|----------------------------------------------------------------|-----------------------|
| 1. 著者名<br>吉村 敏之                                                | 4. 巻<br>55            |
| 2. 論文標題<br>「真正の学び」を生み出すカリキュラム・マネジメント 巨摩中学校における「科学と芸術の基礎」を教える実践 | 5. 発行年<br>2021年       |
| 3. 雑誌名<br>宮城教育大学紀要                                             | 6. 最初と最後の頁<br>317-326 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                                 | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                         | 国際共著<br>-             |

|                                                           |                     |
|-----------------------------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名<br>吉村 敏之                                           | 4. 巻<br>1           |
| 2. 論文標題<br>斎藤喜博「ひとつのこと」に集中して「ひとつの道」を歩む実践 カリキュラム・マネジメントの指針 | 5. 発行年<br>2020年     |
| 3. 雑誌名<br>新教育ライブラリ                                        | 6. 最初と最後の頁<br>64-67 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                            | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                    | 国際共著<br>-           |

|                                                   |                       |
|---------------------------------------------------|-----------------------|
| 1. 著者名<br>本田 伊克                                   | 4. 巻<br>55            |
| 2. 論文標題<br>「総合的な学習の時間」の理論的・実践的課題 何のために、何を「探究」するのか | 5. 発行年<br>2021年       |
| 3. 雑誌名<br>宮城教育大学紀要                                | 6. 最初と最後の頁<br>307-315 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                    | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難            | 国際共著<br>-             |

|                                        |                    |
|----------------------------------------|--------------------|
| 1. 著者名<br>本田 伊克                        | 4. 巻<br>896号       |
| 2. 論文標題<br>豊かな「教材文化」を子どもたちとともに         | 5. 発行年<br>2020年    |
| 3. 雑誌名<br>教育                           | 6. 最初と最後の頁<br>6-13 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-          |

|                                           |                     |
|-------------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名<br>吉村敏之                            | 4. 巻<br>1           |
| 2. 論文標題<br>教師の成長を支える実践記録 群馬県玉村小学校・島小学校の事実 | 5. 発行年<br>2019年     |
| 3. 雑誌名<br>教育実践資料研究                        | 6. 最初と最後の頁<br>15-22 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし            | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難    | 国際共著<br>-           |

|                                                |                       |
|------------------------------------------------|-----------------------|
| 1. 著者名<br>吉村敏之                                 | 4. 巻<br>54            |
| 2. 論文標題<br>「総合的な学習」における「探究」を促す学習集団 船戸咲子学級の事実から | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>宮城教育大学紀要                             | 6. 最初と最後の頁<br>417-424 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                 | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である)          | 国際共著<br>-             |

|                                              |                       |
|----------------------------------------------|-----------------------|
| 1. 著者名<br>本田伊克                               | 4. 巻<br>54            |
| 2. 論文標題<br>教育と復興の課題に学校はいかに応えうるか 教育システム論の視角から | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>宮城教育大学紀要                           | 6. 最初と最後の頁<br>471-476 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし               | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である)        | 国際共著<br>-             |

|                                        |                     |
|----------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名<br>本田 伊克                        | 4. 巻<br>1           |
| 2. 論文標題<br>算数・数学の学習文脈をいかに構想するか         | 5. 発行年<br>2020年     |
| 3. 雑誌名<br>宮城教育大学教職大学院紀要                | 6. 最初と最後の頁<br>51-60 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著<br>-           |

〔学会発表〕 計7件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

|                                                       |
|-------------------------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>吉村 敏之                                      |
| 2. 発表標題<br>「科学と芸術の基礎」を培うカリキュラム・マネジメント 山梨県巨摩中学校の教育内容研究 |
| 3. 学会等名<br>日本教育学会第80回大会                               |
| 4. 発表年<br>2021年                                       |

|                                                     |
|-----------------------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>吉村 敏之                                    |
| 2. 発表標題<br>高橋金三郎の創出した「教授学」 すべての子どもに高いレベルの科学をやさしく教える |
| 3. 学会等名<br>日本教育方法学会第57回大会                           |
| 4. 発表年<br>2021年                                     |

|                                       |
|---------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>吉村 敏之                      |
| 2. 発表標題<br>宮城教育大学の臨床教育研究 授業を根本から問いなおす |
| 3. 学会等名<br>日本教育方法学会第57回大会 ラウンドテーブル    |
| 4. 発表年<br>2021年                       |

|                                             |
|---------------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>吉村 敏之                            |
| 2. 発表標題<br>宮城教育大学における「教授学」の伝統を「教科内容学」構築に生かす |
| 3. 学会等名<br>教育目標・評価学会 第31回大会                 |
| 4. 発表年<br>2020年                             |

|                                         |
|-----------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>吉村 敏之                        |
| 2. 発表標題<br>林竹二の学問における「授業」の意義 「自己の再造」の契機 |
| 3. 学会等名<br>日本教育学会 第79回大会                |
| 4. 発表年<br>2020年                         |

|                                        |
|----------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>吉村敏之・本田伊克・本間明信・埴原美枝子        |
| 2. 発表標題<br>「科学・芸術の基礎」を学ぶ授業の創造 巨摩中学校の教育 |
| 3. 学会等名<br>日本教育学会第78回大会                |
| 4. 発表年<br>2019年                        |

|                                    |
|------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>吉村敏之                    |
| 2. 発表標題<br>船戸咲子学級の「学習の基盤」形成 個が育つ集団 |
| 3. 学会等名<br>日本教育学会第78回大会            |
| 4. 発表年<br>2019年                    |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

|               | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号)                         | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号)                              | 備考 |
|---------------|---------------------------------------------------|----------------------------------------------------|----|
| 研究<br>分担<br>者 | 本田 伊克<br><br>(HONDA Yoshikatsu)<br><br>(50610565) | 宮城教育大学・大学院教育学研究科高度教職実践専攻・教授<br><br><br><br>(11302) |    |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|